

社説

血液製剤もあなたの献血で

病気を治すには、輸血が行われる。昔は採血した血液をそのまま患者の体内に送りこんでいた。今は必要に応じて血液の成分を分けて使う。

血液(けつじょう)、赤血球、血小板。これらは輸血でも使われるが、薬としても有効なことがわかってきた。血漿からは、血友病に欠かせない血液凝固因子製剤、やけどに効果のあるアルブミン製剤、感染症に効く免疫グロブリン製剤が作られる。これらを血漿分画製剤と呼んでいる。

輸血用の血液は国内の献血でまかなっている。が、血漿分画製剤まで手が回らない。九〇%以上はアメリカの売血などに依存している。汚染された血液凝固因子製剤で千人を超すエイズの感染被害を招きかねない。また、新しい。

厚生省の新しい血液製剤推進検討委員会が、国内の血漿分画製剤も国内献血でまかなうべく、

中には薬用成分の半額といふものもある。この差益が製剤に転換せねばならぬ。血漿の抑制には、薬用成分を抽出する。

次に、原料となる血漿の確保のため、献血を増やさなくてはならぬ。血液凝固因子製剤の確保は、新しい年間の五十万公升の血漿が必要。六十二年度の献血は、大分県血漿供給量は十二万公升から、献血の倍増作戦が必要。

このために、出張採血の窓口を大幅に増やし、若い人たちが献血しやすい場所にしていく必要がある。職場や学校の協力も大切だ。みんなが力をあわせて、

「第二次交通戦争」を阻止しよう

世界の生産の三分の一を消費している。輸血の交通事故による死者が、九月に入ると七千人を突破した。

この数字は、十三年ぶりに犠牲者が一万人を超えた昨年より、さらに多い。一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

今年前半の死亡事故の特徴を見ると、自動車、バイクに乗り中の死者が増え続け、それに加えて自転車利用者や歩行者の犠牲者も増加傾向をたどっている。

中でも目立つのが、六十五歳以上の高齢者の死者が増えていることだ。高齢者の死者は全体の二割を占め、歩行中、自転車

利用中の犠牲者が、半分以上が高齢者である。昭和四十五年の第二次交通戦争の犠牲者、千供たちの犠牲者が目立ったが、いまでは、お年寄りが交通戦争の犠牲者といえる。

これにきく、なほ死亡事故が激減をみたのだろうか。その昔、クルママシナはかかっているというな犠牲者が複雑な格好合っているという。

一番の原因が、何となくも、運転が支えられて、人と物の動きが複雑ななっている。免許入口、車両事故、交通違反が飛躍的に増大している。それを証明している。

また、四輪車と二輪車が一緒なて走り回ると、激しい道路環境の中で、クルマ社会の一員として動かさざるを得ない高齢者が、海を乗り切れないという現状がある。

一つの例だが、バイクに乗って死亡事故に遭った高齢者が急増している。高齢者の人口が増えているにもかかわらず、犠牲者の増え方はそれを超えている。

もう一つ気になのは、シートベルトの着用率が、昨年あたりから低まっていることだ。ベルトを締めるのが死にた人が、

全国の交通事故による死者が、九月に入ると七千人を突破した。

この数字は、十三年ぶりに犠牲者が一万人を超えた昨年より、さらに多い。一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

今年前半の死亡事故の特徴を見ると、自動車、バイクに乗り中の死者が増え続け、それに加えて自転車利用者や歩行者の犠牲者も増加傾向をたどっている。

中でも目立つのが、六十五歳以上の高齢者の死者が増えていることだ。高齢者の死者は全体の二割を占め、歩行中、自転車

利用中の犠牲者が、半分以上が高齢者である。昭和四十五年の第二次交通戦争の犠牲者、千供たちの犠牲者が目立ったが、いまでは、お年寄りが交通戦争の犠牲者といえる。

これにきく、なほ死亡事故が激減をみたのだろうか。その昔、クルママシナはかかっているというな犠牲者が複雑な格好合っているという。

一番の原因が、何となくも、運転が支えられて、人と物の動きが複雑ななっている。免許入口、車両事故、交通違反が飛躍的に増大している。それを証明している。

また、四輪車と二輪車が一緒なて走り回ると、激しい道路環境の中で、クルマ社会の一員として動かさざるを得ない高齢者が、海を乗り切れないという現状がある。

一つの例だが、バイクに乗って死亡事故に遭った高齢者が急増している。高齢者の人口が増えているにもかかわらず、犠牲者の増え方はそれを超えている。

もう一つ気になのは、シートベルトの着用率が、昨年あたりから低まっていることだ。ベルトを締めるのが死にた人が、

去年より一五%も増えている。犠牲者、油断、恐れなどによるものだが、この効果的な救命活動は、心行した。

今年の「交通安全白書」は、「第二次交通戦争」の兆しを告げた。しかし、この「戦争」は何としても避けたい。

暴走族の無謀運転が相変わらず激りないうちを考えると、警察当局による取り締まりの強化は続けなくてはならない。警察庁はこのほど、暴走族の根絶政策を進めるために、整備不良車を規制以上の罰金を課せられたり、空吹かしをしたらした場合の違反点数や反則金を引き上げると発表した。その効果を期待したい。

また道路環境の整備も必要だ。高齢者ドライバーのことを思うと、道路標識をもっと見やすく、分かりやすくし、信号機の位置も改善する余地がある。

だが、それ以上に大切なのは、クルマ社会に参加している一人ひとりが、道路交通に関する安全知識をしっかり身につけ、実行することである。

きょう十一日から、全国で「高齢者交通安全週間」が始まる。これを機会に、死者のカーブを下向きしたい。

また道路環境の整備も必要だ。高齢者ドライバーのことを思うと、道路標識をもっと見やすく、分かりやすくし、信号機の位置も改善する余地がある。

だが、それ以上に大切なのは、クルマ社会に参加している一人ひとりが、道路交通に関する安全知識をしっかり身につけ、実行することである。

きょう十一日から、全国で「高齢者交通安全週間」が始まる。これを機会に、死者のカーブを下向きしたい。

また道路環境の整備も必要だ。高齢者ドライバーのことを思うと、道路標識をもっと見やすく、分かりやすくし、信号機の位置も改善する余地がある。

だが、それ以上に大切なのは、クルマ社会に参加している一人ひとりが、道路交通に関する安全知識をしっかり身につけ、実行することである。

きょう十一日から、全国で「高齢者交通安全週間」が始まる。これを機会に、死者のカーブを下向きしたい。